

「第1回 小樽市雪対策基本計画策定 懇話会」意見交換内容（概要版）

日時：令和元年7月3日 13:30～15:30

場所：市立図書館 2階視聴覚室

出席者：委員12名（うち代理出席1名）

オブザーバ：2名

傍聴者：3名

事務局：4名

○：委員からの意見等

→：事務局の意見等

()：補足説明

1 除排雪作業について

- 昨年度については、情報提供も密にとっていただき、通学路についても、特に排雪していただいたタイミングも早く、良かった。排雪を引き続きお願いします。
- 小中学生の登下校の安心・安全を優先に進めているので、今後も最大限の尽力をお願いしたい。
- 昨年度は、非常に排雪作業の対応が早かった印象があります。
- 場所なのか、エリアなのか、業者によるものか、除排雪のやり方が違うので統一性をもってほしい。
- 交通事業者と学校との連携が改善されたとあるが、どのように改善されたのでしょうか。
→交通事業者とは、お互いに窓口担当を設けて、バス路線や主要交差点の排雪のタイミングなどを情報共有しています。
学校へは、教育委員会が窓口となって、3学期始業式までに排雪箇所を事前に確認しています。
市役所庁内の連絡会議（教育、福祉等）を月1回行っており、1ヶ月間の事業やイベント等の情報共有を図って、除雪業務に反映させております。
- 除雪によってできる雪山がある程度大きくなったら、排雪するが、エリアによって2回排雪したり、1回も排雪しなかったりする。どうしてでしょうか。
→現場状況を確認しながらある程度面的に排雪作業を進めています。
交通量が多い幹線道路を優先的に作業しているので、生活道路等と比べると、どうしても回数に差がでてしまいます。
- 除排雪作業がどのようなルールで行っているのか分からないため、作業の不公平感があつたりします。今後、広報は必要と思います。
- 小樽駅前の雪山処理のタイミングですが、「雪あかりの路」までではなく、早めの対応をお願いしたい。
- 小学校前の道路の排雪も、予算がないから出来ないではなく、事故が起きる前に対応をお願いしたい。
- 除雪作業を行う職員の高齢化、技術の継承、人材不足の問題がある。小樽市と一緒に、コミュニケーションを図りながら、いろいろな改善を進めて、除排雪作業の向上に努めたい。

2 「市民の声」について

- 「市民の声」について、要望、苦情等の詳しい内容を細かく把握しているのでしょうか。
→除雪依頼と排雪依頼を提示したが、その他の詳しい内容については、次回に説明したい。

3 「置き雪」について

- 「置き雪」とは何か
→道路に降り積もった雪を除雪機械を使って、かき分け、道路脇に寄せた雪を置き雪と呼んでいます。
- 過去に冬の降雪によって自宅から出られないことがあった。切実に困っているのは実はこういうところなのかなと思います。

4 「雪置場」について

- 地域の雪の問題は、雪を置く場所で困っている。雪の少ない年でも困るエリアをマップ化してチェックするような、優先的にメリハリをつけて、市内一律に作業しなくてもよいのではと思うので検討してほしい。
- 財源が限られている中で、いかに効率的に除雪作業を行うのが、今後の課題と思っています。
- 「雪置場」とは何か
- 地域の方のみが除排雪作業に使用する小規模な空地（自宅周辺）となります。
- 空地や空家などが多いと思うが、そういうところも利用しているのでしょうか。
- 道路沿いの小規模な空地で、市の土地だけでなく、民間から提供されている箇所もあります。
- 「雪置場」について、特にお年寄りが困っている。空地の所有者がなかなか貸してくれない状況があれば、（市が）優遇措置を講じるなど検討してほしい。
- 地域の「雪置場」が重要な課題だと思います。
- 地域の皆さんが使用する小規模な空地の確保も考えていきたい。雪対策ということで総合的に計画を作成したい。

5 福祉除雪について

- 福祉除雪について、赤い羽根共同募金等の財源の増額が見込めない状況なので、今後、なるべくサービスを低下させないかようにすることが課題であります。
- 町内会からボランティア対応はできないのでしょうか
- 町会で費用負担するのは、かなり難しい状況です。

6 ロードヒーティングについて

- ロードヒーティングの経費が増えているのはなぜか。
- 電気料金が高くなっていることが原因と考えています。10年間で単価が約5割増しとなっています。

7 砂まきボランティアについて

- 砂まきについて、雪融け後の処理が大変です。
- 砂まきボランティアについて、実際に作業されている人数を押さえているのか
- 資料16ページに記載しています。（平成30年度実績で153件等）
- 年齢層は押さえているのか。
- 年齢層は押さえていません。

8 オブザーバの意見

- ・小樽開発建設部 小樽道路事務所
- 皆さまから、いろいろな意見を伺いました。今後、国道の部分で何かできる場所があればと思います。
- ・北海道 小樽建設管理部 事業課
- 財源が少ない限られた予算のなかで、除排雪作業を行うことは、行政だけでは難しいこともありますので、地域の皆さまと連携・協力しながら進めていくことが大事であると思います。

「第1回 小樽市雪対策基本計画策定 分科会」意見交換内容（概要版）

日時：令和元年7月10日 13:30～15:20

場所：市立図書館 2階視聴覚室

出席者：委員18名

傍聴者：1名

事務局：2名

○：委員からの意見等 →：事務局の意見等 ()：補足説明

1 貸出ダンプ制度について

○市がダンプを保有して配車できないのでしょうか。

→貸出ダンプのために、市がダンプを所有することは難しい。ダンプ組合と連携して配車したい。

2 ロードヒーティングについて

○なるべく経費をかけないで、太陽光発電など自然エネルギーを活用して、バス路線やバス停の融雪ができないでしょうか。

→自然エネルギーなど、さらに経済的・効率的な熱源が活用可能であれば検討したい。

3 凍結路面对策について

○砂散布作業と除雪作業のタイミングについて、除雪作業の前に砂散布をすると無駄になるし、春先の砂の処理も大変であり、砂散布を行わなくてもよい路線があると思われるので、砂散布箇所の見直しも検討してほしい。

→作業の連携について、受託者と打合せしながら、タイミングよく作業したいと思います。

4 雪対策基本計画について

○この計画の想定期間はどのくらいでしょうか。

→概ね10年間です。

○人口減少や高齢化を想定した雪対策の検討が必要と思います。

→今後、どうしたらよいのか分科会・懇話会で検討したいと思います。

5 除排雪作業について

○旧手宮線に雪を投入しないようにバリケードを設置しているが、イベント時期（雪あかりの路）になると雪が足りないためにわざわざ雪をダンプで運び入れているが、普段の除雪から雪を入れるようにすれば、その作業はいらなくなって経費削減になるのではと思います。

→イベントの担当者に確認してみます。

○歩行者の安心安全のために歩道のない道路や歩道の除排雪の検討が必要と思います。

→歩行者に対する安全も重要な課題と認識しております。

○排雪作業の要望先はステーションなのか市なのでしょうか。

→排雪については、除雪ステーションと協議事項であるため、まずは、除雪ステーションへ連絡をお願いしたい。

○ステーションによって排雪のやり方が違う。公園敷地を利用しているところと、していない箇所がある。今後検討できないでしょうか。

→現状を確認させていただき、検討させていただきたい。

- 冬期間の狭隘・急坂道路にて、緊急車両（消防・救急）が通れないと住民の安心安全が脅かされていることが問題です。
 - 例えば、雪押場等の情報提供をいただくことで、作業方法の工夫で何ができるのか検討したい。
- 協働の取組について、自前の除雪機で地域の道路除雪作業など。町会でもできることは行っています。（地域の方々が、燃料代等を負担）

6 空き家対策について

- 空き家の落雪対応を市にお願いしたい。
 - 市の空家対策の担当、消防と連携して緊急処理を行っていますが、基本は空家の所有者に落雪対応をお願いする